

御蔵島版ストランディングレコード

青木拓哉

一般社団法人御蔵島観光協会 〒100-1301 東京都御蔵島村 aoki@mikura-isle.com

緒言

御蔵島周辺海域には、ミナミハンドウイルカ (*Tursiops aduncus*) が周年生息しており、海岸へ座礁や漂着、混獲することがあるが、御蔵島のような外洋島では、ミナミハンドウイルカに限らず、外洋性の鯨類も漂着することがある。このような、鯨類が海岸に座礁および漂着することをストランディングと言う。また、鯨類が本来の生息海域から離れて港や河川などに迷入する現象も含まれる。一方で、漁具による混獲については、自然現象であるストランディングと異なり人為的な事故であることから、通常はストランディングとしては扱われない。しかし、鯨類は捕獲規制や希少生物に指定されていることが多く、生態や生理、形態などに関する研究が困難であることから、混獲事例は大変貴重な資料となる。このことから、ストランディングレコードを漂着および迷入、混獲の3つに分類して取り扱われている。これまで、御蔵島でストランディングが起きた際、御蔵島観光協会が島内外のネットワークとして情報を整理してきた。そこで、今回はこれまで記録してきたストランディングをリスト化することを目的とした。

材料と方法

リストには、漂着、迷入、混獲のあった鯨類を記載し、目撃情報については、未記載とした。本書のリストで記載した各項目の説明は、以下のとおりである。

1) 登録番号

ストランディングデータは個体ごとではなく、発生した事例ごとに1件として記録した。アルファベットは情報の種類と該当鯨の分類（ヒゲクジラ類またはハクジラ類）を示し、番号はデータベースに登録した順に記載した。

O : ハクジラ類

M : ヒゲクジラ類

2) 種名

種が確定しない一部の記録では属名（ハンドウイルカ属）での表記とした。種名については和名で記載した。

3) 群頭数

ストランディングデータは個体ごとではなく、発生事例ごとに 1 件として記録している。複数の個体が同時に座礁・漂着する現象（マス・ストランディング）は、1 群の個体数を記載した。

4) 性別

雌雄判別ができた個体を記載した。

5) 位置

発見した位置を記載した。海上で発見された場合は、直近の陸地の岩や根の名称を記載した。対象個体が複数の地点に移動した場合は、基本的に最初の発見位置とした。

6) 西暦年月日

対象個体が最初に発見された日付を 8 桁の数字で記載した。

7) 状況

漂着：死体の漂着，生体の座礁を含む。生存個体が海岸の浅瀬付近まで来た場合も漂着とした。

迷入：生体の場合のみ分類した。湾内でミナミハンドウイルカ以外の種が遊泳していた場合のみ記載した。

混獲：漁具の種類もわかれば記載した。漂流死体が漁具などに引っかかる事例は混獲としない。

8) 生/死

発見時の生存状況と、生きていた場合にはその転帰（死亡，捕獲等）を記載した。

9) 体長/体重

該当個体の体長を cm 単位で，体重を kg 単位で記載した。別途「生物情報」欄に他個体のデータも記載した。また，目測で体長が報告された場合や，計測方

法が曖昧な場合などは「生物情報」欄に「約〇〇cm」等記した。

10) 生物情報

発見時の個体の状況，詳細な調査データの有無等を記載した。

11) 標本

該当個体から採取された標本の種類を得られた限りの情報を記載した。

結果と考察

2001年から2024年までのストランディング報告数は、20件だった。そのうち、ミナミハンドウイルカのストランディングは14件だった（図1）。年ごとのストランディング報告数を比較した結果、2008年と2020年は年間で3件の報告があった（図2）。

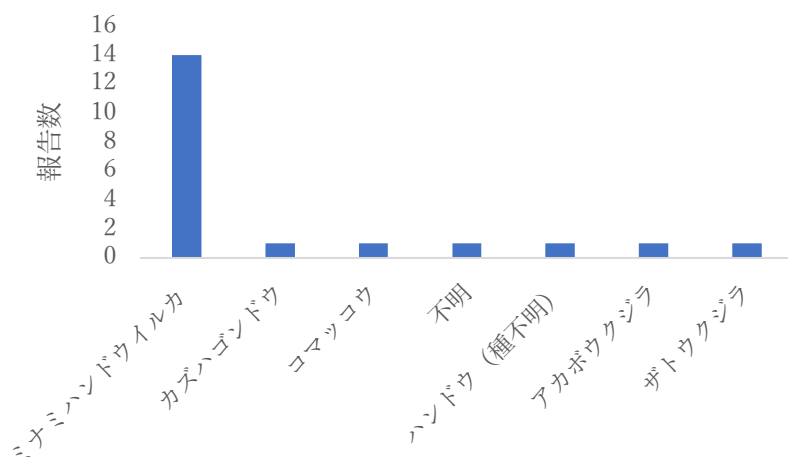


図1. 鯨種ごとのストランディング報告数

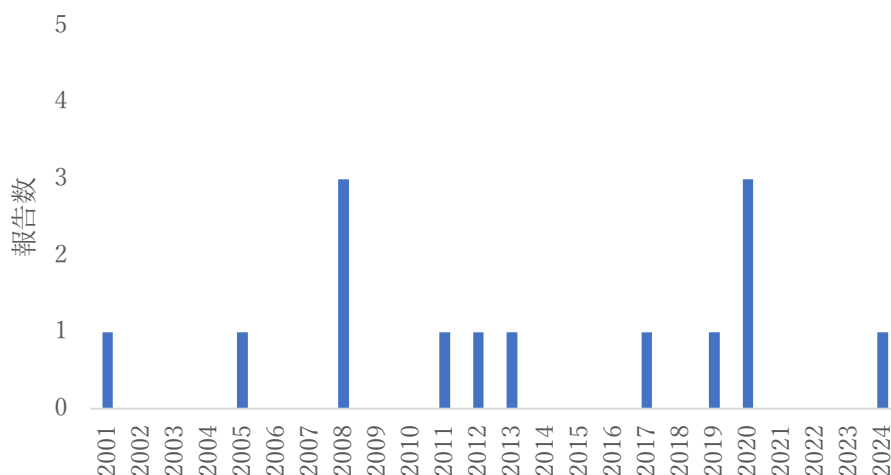


図2. 年ごとのストランディング報告数

御蔵島は、急峻な海食崖に囲まれた岸で港以外に湾がない。また、島は黒潮の流路上に位置するため、激しい波によって丸く削られた石（玉石）が形成され、海岸一面に玉石が広がっている。このことから、黒潮によって潮流が速く、海岸が砂浜でないため、座礁及び漂着しにくいまたは、漂着してもすぐに流出しやすい場所であることが考えられる。

ストランディング調査は、漂着した個体を陸上で観察、解剖するものである。死亡した個体を調査するため、性別や成熟状態、年齢、食性などの詳細な情報が得られる。これまで御蔵島で報告されてきた鯨種は、準絶滅危惧に指定されているミナミハンドウイルカや外洋に生息する種であるため、成熟状態や年齢、食性に関する情報を得ることは通常困難である。突然発生するストランディングの報告・調査は、その種の生態解明だけでなく、昨今の気候変動による海洋環境の変化を知ることにも貢献する。今後もストランディング報告は、継続して行う必要がある。

謝辞

本報告にあたり、ストランディング発生時に連絡をくれた方、解剖調査にご協力いただいた方に心より感謝いたします。

表 1. 御蔵島版ストランディングリスト

登録番号	種名	群 頭数	性別	位置	西暦年月日	状況	生/死	体長	体重	生物情報	標本	備考
O-001	ミナミハンドウイルカ	1	雄	南郷付近の海底	2001/7/20	海底(水深8m位)に沈んでいるのを発見(イルカウォッチング客)。発見後約2時間後に引きあげた。当時5時ごろタカベ刺網にイルカがかかり、放流したとのこと(この時は生きていた)。この個体の可能性あり。	死亡	216.5		体色の特徴: 斑点なし、体の傷は少ない、識別されていない個体	全身骨格は標本、各臓器・筋肉は標本サンプルとしてアルコール冷凍保存	
O-002	カズハゴンドウ	1	雌	トククリ根礁の海岸	2002/3/21	死亡後に打ち上げられた様子。一部黒色の皮が残っていたが、多くは白色化していた。腐敗臭あり。	死亡	245		歯: 歯はかなり抜けていた	頭部、表皮、皮下脂肪(全て冷凍保存)。残りは海岸に埋葬	
O-003	コマッコウ	1	雄	よっこ地前海岸	2002/3/25	死亡後打ち上げられた様子。波打ち際より5m位のところに横たわっていた。一部白色化。生殖器が出ていた。	死亡	183		下顎のみに歯あり。	頭部、表皮・皮下脂肪、肝臓、腎臓、筋肉、胃、心臓(すべて冷凍保存)。残りは海岸に埋葬。	
O-004	ミナミハンドウイルカ	1	雌	えび磯沖	2005/7/10	タカベの刺し網による混獲	死亡	225.5		体長: 250cmくらい、下顎に歯が数本残る	頭部	
O-005	不明	1	雄	東岸 エビ磯付近	2005/8/12	腐乱進み 内臓消滅 干物状態	死亡					
O-006	ミナミハンドウイルカ	1	雌	イルカ館200mほど	2008/6/11	海底に沈んでいた。右を下に横たわる状態	死亡	175			皮膚、肝臓、腎臓、子宮、卵巣、全身骨格	胃は空っぽ
O-007	ミナミハンドウイルカ	1	雌	桟橋西側コクマ根	2008/6/25	タカベ刺網による混獲	死亡	248.4	229.5	腹部に斑点出現、14歳	腎臓、肝臓、心臓、胃内薬物、皮脂、精巣、全身骨格	1994年生まれ。識別番号#165、母親は#027
O-008	ミナミハンドウイルカ	1	雄	桟橋西側コクマ根	2008/7/25	タカベ刺網による混獲	死亡	249.5		腹部斑点少ない、識別番号259MS、母親は#032	肝臓、腎臓、胃、皮脂、筋肉、精巣、全身骨格	13歳、胃よりタカベ3尾とハタンボ4尾
O-009	ミナミハンドウイルカ	1	雄	港東防波堤沖	2011/6/7	タカベ刺網による混獲。尾筋付け痕がぐるぐる回っていた。	死亡	233		ほとんどの歯が並んでいて、腹部に斑点が少しあり、識別番号#454、10歳、母親は#080	肝臓、腎臓、筋肉、皮脂、精巣、全身骨格	胃よりタカベ15尾、サハ2尾、種不明イカ2匹。
O-010	ミナミハンドウイルカ	1	雌	東防波堤沖、水深15mほど	2012/5/25	タカベ刺網による混獲。	死亡	249		識別番号356「りんごちゃん」、2012年に出産確認	皮膚、腎臓、肝臓、筋肉、子宮および卵巣、腸	胃よりタカベ4尾
O-011	ミナミハンドウイルカ	1	雄	桟橋東側メートル、水深15m	2013/6/16	タカベ刺網による混獲。	死亡	260		識別番号#406、母親は#064	皮膚、筋肉、精巣、全身骨格	胃よりタカベ
O-012	ハンドウ(種不明)	1	雄	港本桟橋	2013/6/25	腐敗進行	死亡	142	45	体重は人が持ち、合計人の体重を引いた数値	筋肉(胃より)、頭部(骨)	
O-013	アカボウクジラ	1	不明	スムリ根付近	2016/7/26	8時ごろまで生存。11時観察時点では海岸漂着。	死亡	650		灰色、歯確認できず、吻短い、背びれカマ状、のどの溝あり(V字)、ダルマザメと思われる傷が多数	胃中の肉片	
O-014	ミナミハンドウイルカ	1	雄	東防波堤東側すぐ	2017/7/16	タカベ刺網による混獲	死亡	230		斑点なし、ダルマザメ食痕あり、識別番号#626MS、母親は#068	皮膚、精巣、ダルマザメの食痕付近皮脂、腸内容物、全身骨格	胃より魚の骨あり、骨盤骨は左のみ紐あり、生殖器は液浸
O-015	ミナミハンドウイルカ	1	雄	えび磯沖	2019/8/3	タカベ刺網による混獲、網に絡まって溺水	死亡	130		埋没歯、うすい灰色、母親は#622	皮膚、胃腸、骨格	
O-016	ミナミハンドウイルカ	1	雌	エビ磯北側沖、水深6m	2020/6/6	タカベ刺網による混獲	死亡	253		識別番号#636、母親は#064	皮膚、全身骨格、胸骨	
O-017	ミナミハンドウイルカ	1	雄	タカベ刺網による混獲	2020/8/1	タカベ刺網による混獲	死亡	192		表皮・皮脂、肩甲骨、胸骨、頭骨、生殖器、全身骨、生殖器周りの皮膚	表皮、皮脂、胃、腸、J肝臓、腎臓、生殖器	
O-018	ミナミハンドウイルカ	1	雌	港東防波堤東側の角筋、水深10m	2020/8/9	タカベ刺網による混獲、死亡沈下	死亡	197		566X18、#566右センターの子	頭骨、筋肉、表皮、胃、腸、J肝臓、腎臓、生殖器	
O-019	ミナミハンドウイルカ	1	雌	エビ磯沖	2024/8/25	タカベ刺網による混獲、網に絡まって溺水。漁が終わるまで10頭ほど群れが網の周りにいた	死亡	253.4		識別番号#509、お腹に胎児あり(体長: 80cm)	皮膚、筋肉、胃、腸、肝臓、脳、心臓、目玉、全身骨格、胎児	
M-001	ザトウクジラ	1	不明	桟橋西側コクマ根(33.892306, 139.585748)	2025/2/1	死亡後に打ち上げられた様子。多くは白色化していた。腐敗臭。頭部欠損	死亡			体長(噴気口中央部-尾鰭分岐部): 5.2m、白色(腐敗進行)、頭部欠損によりヒゲ痕確認できず、敵を確認、背びれあり、尾鰭分岐部あり、ダルマザメと思われるかい種多数、噴気口付近に2箇所大きな切り込み、ザトウクジラの特徴的な胸鰭確認		無し